

貧困問題と地域社会を考える

第9回地域福祉推進を考えるセミナー開催報告

地域福祉とは「共に生き、支え合う社会づくり」を、住民参加と関係機関・団体との協働・連携により具現化していく取り組みです。

昨今は特に「貧困」が社会問題として取り上げられていることから、本会地域生活施設協議会・更生福祉施設協議会では、生活困窮者を排除しない社会形成に求められていることは何かを、民生委員児童委員や福祉施設職員等と共に考える機会として、11月8日に「第9回地域福祉推進を考えるセミナー」を開催しました。(参加者154人)

第1部の基調講演では、明治学院大学教授の新保美香さんより、生活保護法の解説と生活困窮者への支援のあり方についてお話がありました。支援のポイントとして、利用者や支援者の持つ「強み・ちから・よいところ」に着目するストレングス視点を紹介され、参加型の演習を通じて参加者同士で話し合い、ストレングス視点をういた支援の重要性について学び合いました。

第2部の実践

報告では、川崎市ふれあい館館長の三浦知人さんから、外国につながる子どもへの学習支援を切り口とした、家庭の現状・ニーズを探る取り組みについて。続いて横須賀市社協の平野友康さんからは、生活福祉資金貸付制度の運用状況の説明があり、同市久里浜第一地区民生委員児童委員協議会副会長の島内幸一さんからは「専門的なことだけでなく、できる限り顔を合わせた関係づくりを心掛け、積極的な訪問をするなど、何気ないかわりを持つことも重要ではないか」とお話しいただきました。



① 新保美香さんによる講演
② 参加者たちが熱心に聴き入る様子

参加者からは「日ごろのかかわりを大切に、ストレングス視点を積極的に活用していきたい」等の感想があり、両協議会では、今後も地域福祉活動のヒントとなるセミナーの企画を進めていきたいと考えています。

(社会福祉施設・団体担当)

いまあらためて考える社会福祉法人の価値と可能性

理事長・施設長セミナー「社会福祉法人による生活困窮者支援」開催報告

「社会福祉法人の原点に立ち返り、困っている人への具体的な実践をしよう」とそのきっかけとして、10月30日、理事長・施設長セミナー「社会福祉法人による生活困窮者支援」を開催しました。(参加者50人)

講師の(公財)テクノエイド協会理事長の大橋謙策さんは「社会福祉法人として、福祉サービスを利用する人の支援をするのは当然であり、問題は、福祉サービスを必要としている人が利用していない人に向き合っていくか。そもそも社会福祉法人は、地域に目を向けて問題を抱える人を発見し、その人とつながって必要なサービスを提供し、社会資源がなければそれを開発してきた歴史がある。ソーシャルワークを展開する組織体であるという本来の姿をあらためて認識する必要があるのではないか」と、社会福祉法人の可能性と期待について投げ掛けました。

また、厚労省「社会福祉法人の在り方等に関する検討会」の構成員で、福岡県福祉会理事の宮田裕司さんからは、国での議論について報告があ

り、「社会福祉法人にふさわしい事業を進めていくことに意義があり、それが経営基盤の強化にもつながる」と、自身の経営実績を踏まえた説得力あるお話がありました。

本会「かながわライフサポート事業」開始から3カ月。生活困窮に関する相談は40件を超え、うち18件は具体的な支援に動き出しています。今後も一つひとつの相談に向き合い、ソーシャルワークを駆使し、地域で困っている人のサポートをする「社会福祉法人にふさわしい事業」としての展開を目指していきます。引き続き、各法人・地域の関係者の皆さまのご協力をお願いします。



①当日は50人が参加
②講師の大橋さん(右)と宮田さん(左)
④県内の美術系大学に通う学生が作成した「かながわライフサポート事業」ロゴマーク

(ライフサポート担当)



+

+